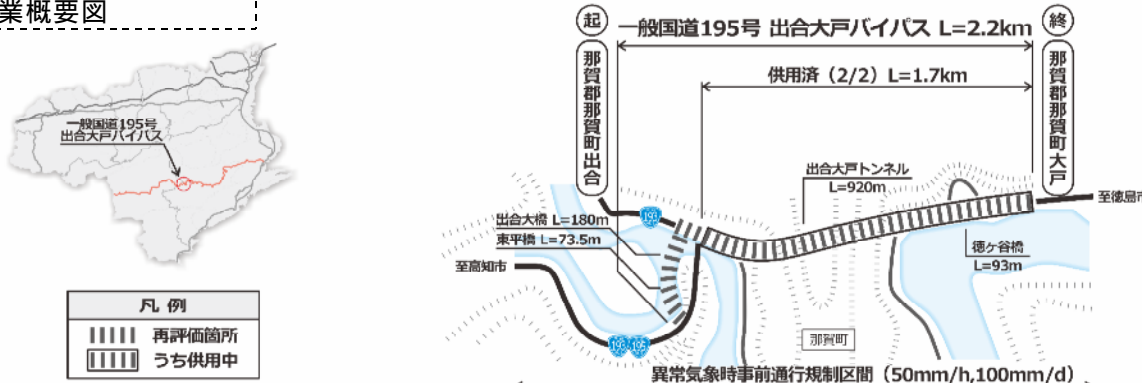


再評価結果（平成25年度事業継続箇所）

担当課：道路整備課

担当課長名：神野 忠

事業名	一般国道 1 9 5 号 出合大戸バイパス			事業区分	一般国道	事業主体	徳島県
起終点	自：徳島県 那賀郡 那賀町 出合 至：徳島県 那賀郡 那賀町 大戸					延長	2.2km
事業概要 一般国道 1 9 5 号は県南地域における東西幹線軸として、地域住民の生活を支え、災害時には緊急輸送道路としての役割を担う生命線道路である。出合大戸バイパスは、車両のすれ違いが困難なトンネル部等の幅員狭小を解消し、安全で円滑な交通の確保を目的とした 2 車線道路である。							
H6年度事業化		-		H7年度用地着手		H7年度工事着工	
全体事業費	85億円	事業進捗率	74.4%	供用済延長	1.7km		
計画交通量	2,100～2,600台/日						
費用対効果分析結果	B / C (事業全体) 1.3 (残事業) 1.4	総費用 (残事業)/(事業全体) 19.5/104.8億円 事業費:19.4/103.8億円 維持管理費:0.1/1.0億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 27.5/135億円 走行時間短縮便益:25.9/114億円 走行経費減少便益:1.5/18億円 交通事故減少便益:0.1/3.4億円	基準年! 平成25年度			
感度分析の結果 (残事業を対象)	交通量変動 : B/C=1.5 (交通量 +10%) 事業費変動 : B/C=1.3 (事業費 +10%) 事業期間変動 : B/C=1.4 (事業期間+1年)			B/C=1.3 (交通量 -10%) B/C=1.6 (事業費 -10%) B/C=1.5 (事業期間-1年)			
事業の効果等							
・ 防災・減災効果：緊急輸送道路ネットワークの強化による地域防災力の向上。 バイパス整備によるトンネル交互通行、落石危険箇所(21箇所)の解消。							
・ 周辺地域の効果：観光施設へのアクセス向上、物流の円滑化が計られ観光・産業振興につながる。							
関係する地方公共団体等の意見							
・ 地元那賀町を含む「四国横断線改良促進期成同盟会」から早期整備を求める要望を受けている。							
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等							
・ 平成16年の台風による災害被害をはじめ、沿線では落石事故や法面崩壊などが毎年発生							
・ 平成17年3月に市町村合併（鷲敷町，相生町，上那賀町，木沢村，木頭村）により那賀町が発足							
・ 平成19年に一般国道193号木沢トンネル開通 (1.3km)							
・ 平成21年に一般国道195号西宇バイパス開通 (0.5km)							
・ 平成24年に一般国道195号折宇バイパス開通 (0.6km)							
事業の進捗状況、残事業の内容等							
・ 平成20年度末の供用区間は全延長2.2kmのうち終点側約1.7km。							
・ 残事業は、橋梁を含む道路改良0.5km。							
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等							
・ 地質状況の悪さによって、追加の対策工が必要となり進捗が遅れたが、残事業は、橋梁上部工と旧橋の撤去のみとなっており、隘路はない。							
施設の構造や工法の変更等							
・ 斜面上に浮き石や転石が発見され法面对策工を追加している。							
対応方針	事業継続						
対応方針の決定理由	以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。						
事業概要図							

総費用、総便益とその内訳は各年次の価格を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。